

令和元年度
下水道に関する人身事故発生状況について
(令和2年2月末現在)

1. 総括
2. 維持管理作業
3. 工事

国土交通省 水管理・国土保全局
下水道部

1.人身事故発生状況(総括)

(令和2年2月末現在)

令和元年度

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2月までの集計	合計
維持管理作業	1. 死亡事故	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	2. 負傷事故	1 (3)	1 (3)	1 (2)	3 (4)	1 (4)	1 (4)	5 (3)	5 (4)	5 (3)	5 (2)	7 (3)	0 (2)	35 (35)	35 (37)
	合計	1 (3)	1 (3)	1 (2)	3 (4)	1 (4)	1 (4)	5 (3)	5 (4)	5 (3)	5 (2)	7 (3)	0 (2)	35 (35)	35 (37)
	累計	1 (3)	2 (6)	3 (8)	6 (12)	7 (16)	8 (20)	13 (23)	18 (27)	23 (30)	28 (32)	35 (35)	35 (37)	-	-
工事	1. 死亡事故	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (2)	0 (0)	7 (2)	7 (2)
	2. 負傷事故	4 (3)	4 (4)	3 (5)	7 (14)	6 (4)	4 (5)	15 (6)	9 (10)	9 (9)	5 (9)	10 (9)	0 (3)	76 (78)	76 (81)
	合計	4 (3)	5 (4)	3 (5)	7 (14)	6 (4)	5 (5)	15 (6)	10 (10)	10 (9)	7 (9)	11 (11)	0 (3)	83 (80)	83 (83)
	累計	4 (3)	9 (7)	12 (12)	19 (26)	25 (30)	30 (35)	45 (41)	55 (51)	65 (60)	72 (69)	83 (80)	83 (83)	-	-
合計	1. 死亡事故	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (2)	0 (0)	7 (2)	7 (2)
	2. 負傷事故	5 (6)	5 (7)	4 (7)	10 (18)	7 (8)	5 (9)	20 (9)	14 (14)	14 (12)	10 (11)	17 (12)	0 (5)	111 (113)	111 (118)
	合計	5 (6)	6 (7)	4 (7)	10 (18)	7 (8)	6 (9)	20 (9)	15 (14)	15 (12)	12 (11)	18 (14)	0 (5)	118 (115)	118 (120)
	累計	5 (6)	11 (13)	15 (20)	25 (38)	32 (46)	38 (55)	58 (64)	73 (78)	88 (90)	100 (101)	118 (115)	118 (120)	-	-

※下段()書きは前年度(平成30年度)の値
 ※国土交通省へ報告のあった事故について集計

2.人身事故発生状況(維持管理作業)

(令和2年2月末現在)

令和元年度

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成30年度 合計
事業者主体	1. 都道府県	1	0	0	2	0	0	1	3	2	2	4	0	15	14
	2. 政令市	0	0	0	1	0	0	1	1	0	1	1	0	5	9
	3. 一般市	0	1	1	0	1	1	1	0	3	2	2	0	12	12
	4. 町村	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	3	2
	5. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	1	1	1	3	1	1	5	5	5	5	7	0	35	37
発生施設	1. 管渠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	2. マンホール	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	1	0	4	4
	3. 処理場	1	1	0	2	1	1	3	4	4	1	3	0	21	22
	4. ポンプ場	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	4	5
	5. その他	0	0	1	1	0	0	1	1	0	1	1	0	6	5
	合計	1	1	1	3	1	1	5	5	5	5	7	0	35	37
事故類型	死亡事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1. 墜落・転落	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2. はさまれ・巻き込まれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3. 飛来・落下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4. 切れ・こすれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5. 転倒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6. 激突	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7. 土砂崩壊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8. 交通事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9. 感電	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10. おぼれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11. 火災・爆発	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12. 公衆災害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	13. 作業車両の横転	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	14. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	負傷事故	1	1	1	3	1	1	5	5	5	5	7	0	35	37
	1. 墜落・転落	1	0	1	1	0	1	0	2	2	1	2	0	11	7
	2. はさまれ・巻き込まれ	0	0	0	0	0	0	4	1	1	0	1	0	7	13
	3. 飛来・落下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	4. 切れ・こすれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	1
	5. 転倒	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	3	3
	6. 激突	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
	7. 土砂崩壊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8. 交通事故	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	0
	9. 感電	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10. おぼれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11. 火災・爆発	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12. 公衆災害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
13. 作業車両の横転	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
14. その他	0	0	0	2	1	0	0	1	1	2	2	0	9	6	
合計	1	1	1	3	1	1	5	5	5	5	7	0	35	37	
被災者数(人)	1. 自治体職員	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2	2
	2. 委託先業者	1	1	1	3	1	1	4	4	5	5	6	0	32	31
	3. 第三者	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	4
	合計(人)	1	1	1	3	1	1	5	5	5	5	7	0	35	37
累計	1	2	3	6	7	8	13	18	23	28	35	35	-	-	

平成30年度

(単位:人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
被災者数(人)	1. 自治体職員	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2
	2. 委託先業者	3	0	1	3	4	4	3	4	3	1	3	2	31
	3. 第三者	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	合計(人)	3	3	2	4	4	4	3	4	3	2	3	2	37
累計	3	6	8	12	16	20	23	27	30	32	35	37	-	

※国土交通省へ報告のあった事故について集計

人身事故情報データベース(維持管理作業)

令和2年2月末現在

NO.	発生日月	事故情報			事故概要・発生防止策		被災者				
		事業主体	発生施設	事故類型	事故概要	再発防止策等	被災者	年齢	性別	被害状況	
2月											
1	R2.2.4	3. 一般市	処理場	①負傷事故	1.墜落・転落	下水処理場の汚泥棟2階にある汚泥脱水機の清掃作業を行っていたところ、バランスを崩し、足を滑らせ、高さ1m程度のパッケージ内ステージから転落。途中にある配管に右足脛と左腰を強打した。発災時、ヘルメットは着用していたが、ハーネス等転落防止器具は着用していなかった。	現地調査による危険箇所の確認を実施。事故情報を職員間で共有し、作業時の安全確保について注意喚起を実施。	自治体職員 (臨時職員)	59	男	右下腿打撲傷、 左骨盤打撲傷
2	R2.2.10	3. 一般市	ポンプ場	①負傷事故	4.切れ・こすれ	現場内のフェンス沿いの生垣を電気トリマーを両手で持って使用して、生垣上部を左から右に均一に整えていた際、太めの幹にトリマーが当たり、その反動でトリマーの刃が左手に当たり負傷した。	罹災者は、経験2か月の初心者であるため社内での教育により習熟を図り、適正な技術を持った作業員を配置するよう申し合わせる。	委託先業者	61	男	左手中指裂傷
3	R2.2.13	1. 都道府県	処理場	①負傷事故	2.はさまれ・巻き込まれ	水中攪拌機の揚げ降ろしのため、キャスター付き移動型クレーンを4人で押して移動中、機器の重みで配管スペースの覆蓋(コンクリート製)が一枚破損し、負傷者が押していたクレーンの脚(4足のうち進行方向右前部)1脚が配管スペース内に落下し、脚と覆蓋の間に右腕が挟まれました。コンクリート製覆蓋が経年劣化により荷重に耐えられなかったものとみられる。	コンクリート製覆蓋の点検及び耐荷重覆蓋の全面的な付け替えを検討。	委託先業者	40	男	右腕皮膚離脱
4	R2.2.13	1. 都道府県	マンホール	①負傷事故	4.切れ・こすれ	マンホール清掃を行うため、ジャッキでマンホール蓋を開けようとしたが、蓋が固着しており、固定している金具が折れ、撤去道具(本体)が飛散し顔面に直撃した。	硫化水素により蓋が腐食している可能性があるため、今後マンホール修繕を行う必要がある。	委託先業者	26	男	前歯損傷
5	R2.2.19	1. 都道府県	ポンプ場	①負傷事故	1.墜落・転落	作業員がゲート室にて施工状況写真の撮影をしていたところ、コンパネ板で左足を滑らせて開口部に転落したが、落下を防ぐために両手及び左脚で踏ん張った結果、左脚を骨折した。作業上不要であったコンパネ板が動線上に放置されており、さらに、細かなコンクリートガラがコンパネ板の下に入り込んで、滑りやすい状況になっていた。開口部に柵や手摺等の安全対策が実施されておらず、また、当日のKY活動においてもその転落の危険性を認識していなかった。	近隣の病院に搬送。事故原因究明後、再発防止策を策定。	委託先業者	49	男	左脚骨折
6	R2.2.27	1. 都道府県	処理場	①負傷事故	14.その他	つり上げ設備(浄化センター保有)を使用してエアレータの入れ替え作業中に、設備が倒れ作業員が負傷した。つり上げ設備の脚連結金具を外すため固定ピンを抜き、ワイヤを外したところ、脚が開き電動チェンブロック(100kg前後)とともに上部が急降下したものの。	流域各浄化センターの機械担当者を対象とした会議において注意喚起を実施。元請業者に對して、再発防止策の提出を依頼。	委託先業者	57	男	腰椎破裂骨折、 腰椎多発横突起・ 骨棘骨折、腰部皮下 血腫、胸椎多発棘 突起骨折、右多発 肋骨骨折、右膝打 撲
7	R2.2.27	2. 政令市	その他	①負傷事故	14.その他	下水道用地の樹木伐採作業を行っている際、伐採した樹木が背中から腰にかけて当たった。本件事故は、倒木が想定される範囲内の立入禁止措置も行わず作業を実施したことが原因であり、安全対策意識並びに作業工程に合わせた作業員の共通認識が欠如していたことが考えられる。	樹木の伐採作業の時は始業時ミーティングで作業手順、作業分担、作業工程(伐採・細断・収束)を明確にすることにより再発防止を図る。また、樹木が倒れる範囲をカラーコーンとテリバーで仕切りをして、その内側には誰も入らせない。作業全体の安全管理専任者を配置し、作業、安全管理、安全確保状況の監視を徹底することにより再発防止を図る。	委託先業者	47	男	第1. 2. 3. 4. 5腰 椎右横突起骨折と 右第11肋骨骨折、 第12胸椎右関節 突起骨折

3.事故発生状況(工事) (令和2年2月末現在)

令和元年度

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成30年度 合計
事業者主体	1. 都道府県	1	1	1	0	0	0	1	1	3	1	0	0	9	11
	2. 政令市	3	6	2	4	2	2	6	1	1	2	3	0	32	43
	3. 一般市	2	3	0	5	6	6	7	7	5	4	7	0	52	65
	4. 町村	0	0	0	1	0	0	2	2	1	0	1	0	7	7
	5. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	6	10	3	10	8	8	16	11	10	7	11	0	100	126
工事分類	1. 管きょ開削	1	9	0	5	6	6	7	6	6	5	6	0	57	79
	2. 管きょ推進	3	0	0	2	0	1	0	1	0	0	1	0	8	13
	3. 管きょシールド	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0	2	0	6	7
	4. 管きょその他	0	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	5	9
	5. 処ポ土木建築	1	0	0	0	0	1	6	1	1	2	1	0	13	7
	6. 処ポ機械電気	0	0	2	0	1	0	1	3	3	0	1	0	11	10
	7. 処ポその他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	合計	6	10	3	10	8	8	16	11	10	7	11	0	100	126
事故類型	1. 墜落・転落	1	0	2	0	1	1	5	4	1	2	1	0	18	25
	2. はさまれ・巻き込まれ	0	1	0	3	2	3	5	3	3	2	4	0	26	13
	3. 飛来・落下	0	0	0	0	1	0	1	0	3	0	1	0	6	9
	4. 切れ・こすれ	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	3	5
	5. 転倒	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	11
	6. 激突	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	5	2
	7. 土砂崩壊	0	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	0	8	5
	8. 交通事故	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3
	9. 感電	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10. おぼれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11. 火災・爆発	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12-1. 公衆災害(人身)	3	2	1	0	0	0	2	1	0	1	1	0	11	4
	12-2. 公衆災害(物損)	2	5	0	3	2	3	1	1	0	0	0	0	17	42
	13. 作業車両の横転	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14. その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2	7	
合計	6	10	3	10	8	8	16	11	10	7	11	0	100	126	
被災者数(人)	1. 死亡	0	1	0	0	0	1	0	1	1	2	1	0	7	2
	2. 重傷	1	2	2	4	6	4	13	8	4	5	8	0	57	70
	3. 軽傷	3	2	1	6	0	0	3	1	5	0	3	0	24	19
	合計(人)	4	5	3	10	6	5	16	10	10	7	12	0	88	91
	累計	4	9	12	22	28	33	49	59	69	76	88	88	-	-
その他(民間発注工事など)															
	1. 死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
	2. 負傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

平成30年度

(単位:人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
被災者数(人)	1. 死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
	2. 重傷	2	4	5	10	3	5	5	8	10	7	8	3	70
	3. 軽傷	1	1	1	9	1	0	1	2	0	2	1	0	19
	合計(人)	3	5	6	19	4	5	6	10	10	9	11	3	91
	累計	3	8	14	33	37	42	48	58	68	77	88	91	-
その他(民間発注工事など)														
	1. 死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2. 負傷	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

※国土交通省へ報告のあった事故について集計

事故情報データベース(工事)

令和2年2月末現在

NO.	発生年月日	事故情報			被災者					
		事業主体	工事分類	従事作業	発生場所	事故概要	事故類型	年齢	性別	被害状況
2月										
1	R2.2.4	3.一般市	2.管きよ推進	排土	現場内	推進工法による下水道管路布設工事において、推進機の先導部を解体し、スクリューを回転させて排土作業を行っていたところ、到達側の立坑内にいた作業員の衣服がスクリューに巻き込まれたことで、身体が強く締め付けられた。	2.はさまれ・巻き込まれ	59	男	死亡
2	R2.2.4	3.一般市	1.管きよ開削	埋戻し	現場内	開削工法による下水道管路布設工事において、作業員が掘削深約1mの溝内に入り、ランマーを用いて締固め作業を行っていたところ、地山が崩壊して下肢が埋もれた。	7.土砂崩壊	60	男	みぎ脛骨・腓骨骨幹部骨折
3	R2.2.7	2.政令市	5.処ポ土木建築	-	現場内	作業員が、木製の開口養生蓋を他の用途に使用しようとして持ち上げたところ、足を踏み外し開口部より7.3m下へ転落した。	1.墜落・転落	32	男	腰椎破裂骨折、気胸、肺挫傷
4	R2.2.14	3.一般市	1.管きよ開削	バックホウ運転中	現場内	仮置きしていた土砂をバックホウで乗り越えようとした際に、バックホウがバランスを崩して前方に傾いたことで、運転していた作業員が腿を負傷した。	14.その他	51	男	右脛骨近位端骨折
5	R2.2.17	3.一般市	6.処ボ機械電気	解体	現場内	水中ポンプと配管を固定しているボルトナットを取り外した際、水中ポンプが傾き、作業員の頭部が配管と水中ポンプの間に挟まれた。	2.はさまれ・巻き込まれ	66	男	下顎骨折
6	R2.2.18	3.一般市	1.管きよ開削	-	現場内	工事車両を停車した際、サイドブレーキの引きが不十分であったため、車両が前進し、作業員が車両と接触して転倒した。	6.激突	25	男	骨盤骨折
7	R2.2.18	2.政令市	3.管きよシールド	資材運搬	現場内	シールド坑内でセグメントの積卸し作業中、バッテリー機関車を移動させたところ、積載していたRCセグメントの継手ボルトと後続台車鋼材枠に左腰がはさまれた。	2.はさまれ・巻き込まれ	73	男	左骨盤開放骨折
8	R2.2.20	3.一般市	3.管きよシールド	架台設置	現場内	シールド機械の反力架台となる鋼材を仮溶接し、レバーブロックを用いて設置位置の微調整を行っていたところ、引張りに耐えられずに溶接部が外れ、落下してきた鋼材が2名の作業員に接触した。	3.飛来・落下	36 41	男 男	左大腿部打撲 左脛骨プラトー骨折
9	R2.2.24	4.町村	1.管きよ開削	切断	現場内	下水道管路の布設工事において、支障となる上水道管をエンジンカッターで切断していたところ、カッターの刃が塩ビ管に弾かれ左足にエンジンカッターが接触した。	4.切れ・こすれ	40	男	左足骨折及び前脛骨筋腱断裂
10	R2.2.27	3.一般市	1.管きよ開削	-	現場内	帰宅した小学生3名が規制帯により自宅に入れないことから、交通誘導員が規制帯内に誘導したところ、バックホウのオペレーターが気づかずにバックホウを旋回させ、バケットが小学生に接触した。	12-1.公衆災害(人身)	9	男	左側頭部挫傷
11	R2.2.27	2.政令市	1.管きよ開削	-	現場内	路盤材の敷均しを行っていた作業員が後退してきたバックホウに轢かれた。	2.はさまれ・巻き込まれ	33	男	右足部デグロ-ピング損傷

令和元年度
下水道に関する水質事故等発生状況について
(令和2年2月末現在)

国土交通省 水管理・国土保全局
下水道部

水質事故等発生状況

(令和2年2月末現在)

[総括]

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
水質事故等 合計	1 (4)	2 (6)	3 (2)	5 (9)	7 (3)	1 (8)	5 (4)	6 (4)	3 (3)	1 (5)	6 (3)	0 (1)	40 (52)
累計	1 (4)	3 (10)	6 (12)	11 (21)	18 (24)	19 (32)	24 (36)	30 (40)	33 (43)	34 (48)	40 (51)	40 (52)	- -

[内訳]

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
事業主体	1. 都道府県	1 (1)	0 (1)	1 (0)	2 (4)	0 (0)	1 (0)	1 (2)	0 (3)	0 (0)	1 (3)	3 (1)	0 (1)	10 (16)
	2. 政令市	0 (0)	1 (2)	1 (2)	1 (0)	2 (2)	0 (0)	1 (0)	4 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	12 (7)
	3. 一般市	0 (3)	1 (3)	1 (0)	2 (4)	4 (1)	0 (7)	3 (2)	1 (1)	2 (2)	0 (2)	2 (1)	0 (0)	16 (26)
	4. 町村	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	1 (0)	0 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (3)
	5. その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合計	1 (4)	2 (6)	3 (2)	5 (9)	7 (3)	1 (8)	5 (4)	6 (4)	3 (3)	1 (5)	6 (3)	0 (1)	40 (52)
発生施設	1. 管渠	0 (1)	0 (4)	2 (1)	1 (3)	1 (0)	0 (2)	1 (2)	2 (1)	2 (2)	0 (2)	2 (1)	0 (0)	11 (19)
	2. マンホール	0 (1)	0 (0)	1 (0)	1 (1)	1 (2)	0 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	4 (6)
	3. 処理場	1 (2)	1 (1)	0 (1)	2 (4)	2 (0)	1 (3)	2 (2)	3 (2)	0 (0)	1 (2)	3 (2)	0 (0)	16 (19)
	4. ポンプ場	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)
	5. その他	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (0)	3 (1)	0 (2)	2 (0)	0 (1)	1 (1)	0 (1)	1 (0)	0 (0)	9 (7)
	合計	1 (4)	2 (6)	3 (2)	5 (9)	7 (3)	1 (8)	5 (4)	6 (4)	3 (3)	1 (5)	6 (3)	0 (1)	40 (52)
原因者	1. 下水道管理者(委託先含む)	1 (0)	1 (3)	2 (2)	1 (4)	3 (0)	0 (1)	0 (1)	3 (2)	1 (0)	0 (1)	3 (2)	0 (1)	15 (17)
	2. 民間事業者(一般人を含む)	0 (2)	0 (2)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (0)	3 (1)	1 (1)	2 (0)	0 (1)	1 (0)	0 (0)	10 (9)
	3. その他(天災、原因者不明含む)	0 (2)	1 (1)	1 (0)	3 (4)	3 (2)	0 (7)	2 (2)	2 (1)	0 (3)	1 (3)	2 (1)	0 (0)	15 (26)
	合計	1 (4)	2 (6)	3 (2)	5 (9)	7 (3)	1 (8)	5 (4)	6 (4)	3 (3)	1 (5)	6 (3)	0 (1)	40 (52)
事故類型	① 悪質下水の流入(放流水質が基準に不適合)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (3)
	② 悪質下水の流入(放流水質が基準に適合)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)
	③ 悪質下水の流入によらない放流水質の基準不適合	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	1 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	2 (1)	0 (0)	3 (7)
	④ 雨水管からの悪質下水の流出	0 (0)	0 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (1)	2 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	4 (5)
	⑤ 下水道施設からの下水等の流出	0 (2)	1 (4)	2 (2)	1 (4)	3 (0)	1 (3)	1 (1)	3 (2)	1 (2)	0 (2)	2 (2)	0 (1)	15 (25)
	⑥ その他事故(①～⑤以外の事故)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (0)	1 (0)	0 (2)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	11 (2)
	水質事故 合計	0 (2)	2 (6)	3 (2)	5 (7)	6 (1)	1 (7)	5 (4)	4 (4)	3 (2)	1 (4)	6 (3)	0 (1)	36 (43)
その他案件	1 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (2)	1 (2)	0 (1)	0 (0)	2 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	4 (9)	
水質事故等 合計	1 (4)	2 (6)	3 (2)	5 (9)	7 (3)	1 (8)	5 (4)	6 (4)	3 (3)	1 (5)	6 (3)	0 (1)	40 (52)	
状況分類	① 耐用年数経過	1 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (1)	2 (0)	0 (0)	6 (5)
	② 耐用年数以内	0 (2)	0 (2)	1 (0)	0 (2)	1 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	1 (2)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	4 (12)
	③ 天災等	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合計	1 (2)	0 (2)	1 (1)	0 (3)	1 (2)	0 (2)	0 (0)	3 (1)	1 (2)	0 (1)	3 (1)	0 (0)	10 (17)

※状況分類については水質事故等において、事故発生原因が下水道施設の損傷または、設備の故障によるものを集計

※()内書きは、前年度(平成30年度)の値

※国土交通省へ報告のあった事故について集計

水質事故等情報データベース

令和2年2月末現在

NO.	発生年月日	事故情報			事故概要・対応		
		事業主体	発生施設	事故類型	事故概要	事故への対応	
2月							
1	R2.2.3	1. 都道府県	処理場	水質事故	—	汚水ポンプの冷却水の給水設備が故障したことにより、汚水ポンプが冷却不能となったため一時汚水処理を停止し、管内貯留した上で復旧を試みたが、故障箇所の特定に時間を要したため最終的に簡易放流に至ったもの。現在は復旧。	次亜塩素酸ソーダの注入量を増加。受水弁の復旧。
2	R2.2.4	3. 一般市	その他	水質事故	—	市内を流れる河川で油漏れが発生していると連絡があり、油漏れが確認された雨水幹線にオイルマットを設置して対応。当日のうちに原因者特定、原因者の作業場からエンジンオイルが流出していた。その後、改めて原因者と関係者にて現地立会を行ったところ、雨水幹線での新たな油の流出は見られなかった。	雨水幹線に万国型オイルマットを設置し、道路側溝には吸着マットを設置。水質汚濁防止法に基づいて、適切な管理をするように原因者に指導を行った。
3	R2.2.6	3. 一般市	管渠	水質事故	⑤下水道施設からの下水等の流出	歩道内の汚泥圧送管から汚泥が漏れているところを職員が発見。歩道上の約2m範囲でしみ出している状況（道路の陥没は無し）。 処理場から処理場への圧送管（供用から48年経過（耐用年数は30年）しており、処理場統廃合によりR2年度廃止予定だったもの）が経年劣化で破損し、汚泥が地表に流出したものと想定。	当該管路は、いずれ廃止予定であることから大規模な改築工事は行わず、破損した部分を切り取り、新たに新材で接続して復旧。翌日には、ポンプを再稼働。ソフト対策として、異常警報装置の調整（圧送汚泥量の管理）を行い、管理体制を強化した。
4	R2.2.16	1. 都道府県	処理場	水質事故	③悪質下水の流入によらない放流水質の基準不適合	放流水リン濃度増加に対する凝集剤(PAC)添加量を毎時データを確認し調整したが、日間平均値(1.03mg/L)が事業計画値(1.0mg/L)を超過した。 栄養塩類増加に係る試験運転を実施し、放流水のT-P濃度を日間平均値0.73～0.74mg/Lを目標とした運転を実施していた。毎時データを確認しながらの運転であったが、PAC添加量変更によるT-P濃度低下が遅れ、日間平均値が事業計画値を超過した。	凝集剤(PAC)添加量を増量し、放流リン濃度を下げる。再発防止策として、毎時のデータを確認し凝集剤添加量を増加させるタイミングを調整する。
5	R2.2.22	2. 政令市	管渠	水質事故	⑤下水道施設からの下水等の流出	ポンプ場からの圧送管に設置されていた仕切弁の不具合により流下能力が低下したため、上流域で緊急避難管から汚水流出が発生した。（流出した汚水は、雨水調整池に流入） 調査の結果、仕切弁が何らかの原因により全開となっていたため、弁体にし渣等が付着して圧送管が閉塞した。	仕切弁が全開となっていなかった原因については、操作時の全開確認不足や振動による誤閉等が考えられるが、特定はできないため、再発防止策として弁体を撤去した。固形塩素による消毒を実施。
6	R2.2.26	1. 都道府県	処理場	水質事故	③悪質下水の流入によらない放流水質の基準不適合	反応槽の硝化不足を主な原因とした、放流水の水質悪化が発生し、下水道事業計画の計画放流水質で全窒素が基準値を超過した。	反応槽処理状況のみをステップ比率を変更した。対応後は通常値にて運転している。